

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年12月21日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 国際交流推進機構

職 名 機 構 長

氏 名 森 純 一

助成の種類	平成24年度・国際交流助成		
事業内容	第18回京都大学国際シンポジウム 「人間の安全保障」開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ		
実施期間	平成24年5月24日 ～ 平成24年5月25日		
実施場所	チュラロンコン大学(バンコク/タイ王国)		
参加者	総数 157名	内訳	学内27名、学外130名
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	2,902,718 円	
	うち当財団からの助成額	2,662,718 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) グローバルCOE「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	招へい旅費(海外)	775,760	775,760
	京都大学旅費(国内)	1,481,340	1,481,340
	業務委託費(会場費含む)	350,880	350,880
	懇親会費	140,000	0
	印刷関係費	100,000	0
その他	54,738	54,738	
合 計	2,902,718	2,662,718	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 当事業を実現するにあたり、貴財団より多額の助成をいただきましたことに対し、深く感謝しますとともに、篤く御礼申し上げます。		

成 果 の 概 要

京都大学国際交流推進機構長 森 純 一

第 18 回京都大学国際シンポジウム

「人間の安全保障」開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ

2012年5月24日（木）から25日（金）の2日間、チュラロンコン大学（タイ・バンコク）にて、第18回京都大学国際シンポジウム「人間の安全保障」開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ（AUN-KU Symposium 2012）を開催した。2日にわたるシンポジウムには、日本、タイ、マレーシア、インドネシア、ラオス、インド（遠隔講義）から延べ130名の参加があり、本学からは西阪昇理事・副学長、森純一国際交流推進機構長のほか、工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、東南アジア研究所、地球環境学堂、研究国際部から合計27名が出席した。

今回のシンポジウムは、AUNおよびチュラロンコン大学の協力を得て実現した。AUNとは、ASEAN University Networkの略称で、1992年の第4回ASEANサミットで提案され、1995年に創立した国際大学連合である。ASEAN加盟諸国を牽引する26大学で構成され、ASEAN加盟国だけではなく、世界各地域と学生交流、研究者交流や共同研究を積極的に実施し、地域内の人材育成の開発に取り組んでいる。

第18回京都大学国際シンポジウムは、2009年にAUNとの間で締結した学術交流協定のもと開催されたAUN-京大 ワークショップ- Building Academic Partnership through Collaboration and Exchange（2011年3月8日（火）-9日（水）於：チュラロンコン大学）にて築いたAUNや東南アジアの各国・地域との研究交流・学生交流の基盤をさらに深めるべく、「『人間の安全保障』開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ」というテーマで実施する運びとなった。

シンポジウムは、Choltis Dhirathiti AUN 副事務局長、西阪昇理事・副学長、Pirom Kamolratanakul チュラロンコン大学学長による開会の挨拶で幕が開いた。西阪理事・副学長の挨拶では、AUNおよびチュラロンコン大学へのお礼が述べられた後、シンポジウム開催の経緯およびテーマについての説明があり、現在、我々が直面している、環境・エネルギー問題、食糧・水の安全、感染症、大規模な自然災害などの地球規模の課題に対応していくためにはこれらの分野の研究者が結集し、地域・国を超えた交流・協力が不可欠であるとされた。

Ramaswamy Sudarshan 国連開発計画（UNDP）教授による基調講演ではASEAN諸国における「人間の安全保障」開発の現状が、河野泰之東南アジア研究所教授による基調講演では東アジアにおける「人間の安全保障」開発の目的や研究の現状がそれぞれ紹介された。シンポジウムは4つの研究発表セッションにて、感染症、防災、食糧と水の安全、環境・エネルギーの各分野から各国の研究者が講演し、質疑応答では他分野の研究者から質問が出るなど、研究分野や国を超えた検討が行われた。

シンポジウム2日目午後には、キャロライン・ハウ東南アジア研究所准教授およびCholtis Dhirathiti AUN 副事務局長の司会進行のもと、各セッションの研究内容を統合し、シンポジウムのテーマである「人間の安全保障」開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップの確立のための課題や方策について熱い議論が繰り広げられた。

シンポジウムの最後のセッションでは、大垣英明エネルギー理工学研究所教授により、シンポジウムの議論がまとめられ、アクションプランとして、AUNや東南アジアの各国・地域との共同研究、研究者交流や学生交流を振興していくための現在進行中のプログラムや今後の実施計画が提案され、参加者の合意を得た。

森純一国際交流推進機構長による閉会の挨拶で、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じた。